

(3) ②様式第3号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

NITS・教職大学院・ 教育委員会等	実施機関名・連携機関名 実施機関：山口大学教育学研究科（教職大学院）、教職員支援機構（NITS）山口大学センター 連携機関：山口県 PTA 連合会、山口県教育委員会
コラボ研修プログラム	事業名：NITS・山口大学教職大学院・山口県教育委員会・山口県 PTA 連合会コラボ研修 「現職教員と教職志望学生が保護者とともに創る「協働」セミナー」
支援事業報告書	研修等名：NITS・山口大学教職大学院・山口県教育委員会・山口県 PTA 連合会コラボ研修 「現職教員と教職志望学生が保護者とともに創る「協働」セミナー」 開催日時：令和 6 年 12 月 21 日 9:30~12:00 開催場所：公立学校共済組合山口宿泊所「セントコア山口」(山口市湯田温泉 3-2-7) 参加人数と属性：109 人 学校関係者（小中高教職員）23 人、教育委員会関係者 4 人、学生 50 人、 保護者（指導助言者）15 人、教職員支援機構関係者 4 人、大学教職員 13 人

目的：

現在の学校教育や教職員が抱える教育諸課題は多様・複雑・高度化しており、学校だけでは解決できない状況にある。教職員業務が一層拡大する中、授業準備、書類作成、多様化する子どもや保護者への対応やデジタル化対応等において困難や負担を訴える教職員も増加している。中でも「保護者対応」に不安や怖さを抱く者は多く、学校・地域の連携・協働や「地域と共にある学校づくり」に躊躇する姿も散見される。

そこで、教職大学院が山口県 PTA 連合会や山口県教育委員会と連携し、保護者と教職員、教育関係者や教職大学院生等が温かく豊かに学びあう「カフェ」形式のセミナーを実施することをとおして、学校・地域の連携・協働、保護者理解や教育活動等の充実を牽引する教職員に成長しあうことを目的とした。

内容：

(1) 開会行事

教職大学院の佐々木司専攻長が、教職大学院の歩み、NITS や山口県 PTA 連合会との関わり等について敬意と謝意を込めた挨拶を行った後、NITS と NITS カフェの紹介、「ちゃぶ台」の考え方と今日のカフェへの期待、研修行事の目的と内容構成等について説明を行い、研修デザイン（全体像）を全参加者で共有した。

続いて、カフェ（班）で事例提供や助言を行う山口県 PTA 連合会役員（保護者代表）および山口県教育委員会「教師力向上プログラム」からの参加者を紹介した。歓迎の笑顔と拍手の中でカフェらしい和やかで温かい空気が広がった。



(2) カフェ（班別ちゃぶ台ワーク）

カフェ（班）は、児童生徒の発達段階、PTA 活動や学校と地域の連携・協働の質・量的違いや学校と保護者との距離感等から校種別（小 9、中 3、高 2）14 カフェとした。各カフェの構成は、凡そ保護者 1、現職教員 2、学生 4、大学教職員 1 となった。

カフェのテーマは「子どもたちのために ～学校と家庭の連携・協働と互いの役割～」とした。流れと凡その時間配分は事前に課した「個人探求課題シート」に示し、学びの流れを各自がイメージし、学びを焦点化して臨めるよう配意した。また、カフェの運営は班員による自主運営とし、能動的な研修参画の姿勢、協調性や展開力を備えた自律的学び手としての成長を期待した。カフェの流れと概要は以下のとおりであった。

①「カフェの仲間になる」

→ 自己紹介を兼ね、今までの保護者や PTA 組織との関わりや連携・協働の経験から好事例を発表し、パートナーとしての捉えを共有した。運動会や学習発表会等の行事協力、登下校の見守りや通学路点検等の安全管理業務支援、校舎補修や環境整備支援に加えて、教職員に対する激励や感謝の声かけによる教職員の意欲向上への寄与等が熱く語られた。一方、教科指導におけるゲストティーチャー、道徳やキャリア教育の講師としての協力による学校教育の質向上に関する好事例がまだまだ少ないように感じられた。

②「学生から疑問に、現職教員と保護者が一緒に考える」

→ 学生発の疑問に対し、現職教員と保護者がそれぞれの立場から、ある時は考えを同じくし、ある時は異を唱えて語りあった。考えの同・異を現職教員の学びにつなぐことは当初から意図したもので、同・異の理由、背景や違いの先にあるそれぞれの思いや願いに気づき、既存の見方考え方を見直す、捉え直すことを狙ったものであった。教員の家庭への介入度と方法が問われ、「それぞれの価値観や教育観を有する家庭への介入は慎



むべきで、学校で教育すべき」とする若手教員と「学校と家庭で見せる顔が違うのは当然で、あくまで一緒に育てる協力者なので、遠慮無く言って欲しいし情報も共有したい」とする保護者の討論が起こったカフェがあった。終了後に、「心から嬉しかった。初めてじっくりと思いが聞けて本当に良かった。」と話す若手教員の姿が印象的であった。



### ③「学校と家庭の連携の様子、自分の推しの取組を紹介する」

→ 教職員と保護者が「推しの取組（好事例）」を紹介しあい、それぞれが連携・協働する取組の幅を広げる時間となった。同時に、連携・協働の拡充や「1+1≥3」の関係性にするために必要な事柄について活発な討論が行われた。地域教育における学校と家庭それぞれの優先度、ニーズや期待の違い、言動を前向きに受け止め、相手を思い、感謝を忘れずパートナーとして関わること等の発言が多かった。

### ④「連携・協働のアイデアを提案する」

→ 子どもたちのため、学校のため、地域のため...を目指して、ユニークで建設的で元気の出る取組を構想する時間とした。山口県は幼稚園を除く全公立学校がコミュニティ・スクールとなり、学校・地域の連携・協働による「人づくりと地域づくりの好循環」が進められているが、特に PTA や PTA 活動に視点を当てた取組を、保護者と一緒に考えることにより、教職員の役割、学校の価値や存在意義等について思考を広げることができた。学力向上、防災教育、教育のホッペを語る会、子ども食堂、地域農園や地域価値の再確認ツアー等、現在の社会・地域事情や課題を反映したプロジェクト提案が多く創造された。



### ⑤「シェアする」

カフェ内容を、イーゼルパッド上に表現し、ポスターセッション形式で共有した。それぞれのカフェらしいポスター、プレゼンテーションとなり、充実したワークショップとなった。

### (3) 講評・閉会行事

山口県教育庁教職員課の杉本昇三管理主事が、児童生徒を真ん中において、保護者と現職教員、学生と大学教職員が豊かに語りあう NITS カフェ（スタイル）の魅力と先進性を指摘した後、これからの学校や教育のあり方、教職員の成長に対する県教委の取組等について講評、報告を行った。

最後に、NITS 山口大学センターの和泉研二センター長が謝辞および閉会挨拶を行い終了した。

### 成果：

研修項目・内容ごとの「学びの整理」を e-メールで提出させ、参加者の変容を学びの実感、自身への問いかけと今後への意識から見取った。昨年度に引き続き満足度は極めて高かった。「学びの整理」を一部紹介する。

・「PTA 役員の方々との協議は、これまでと違った視点で学校を捉える大変貴重な学びの機会となった。印象に残っているのが関係のつくり方・関わり方である。学校と家庭がそれぞれに対して「対面」の立場で話すとお互いの意見をぶつけるようになるが、そうではなく、何をめざしているのかを真ん中において、それに向かって話す「横の関係」をつくるのが大切と実感できた。参加して本当に良かったと思えた研修だった。」（中学校）

・「教師はどうしても教師同士のつきあいに終始する。コミュニティ・スクールに移行しても、実際は地域とつながる教師は一部に限られる。PTA を含めた教職員以外の様々な人とつながり、思いや願いを語りあうことは、子どものよりよい成長だけでなく、教師自身や教職員組織の成長にもつながると確信した。カフェも良かった。」（中学校）

・「本日は貴重な機会を頂きありがとうございました。実は、P 役員をしている私たちでも、現役の先生方とじっくりと話ができる機会はほとんど無く、有り難い、嬉しい時間でした。昨今、先生方や学校についてはネガティブな話題ばかりですが、明るい方ばかりで、また一緒に連携・協働の取組も考えることができ、少し安心した気持ちにもなりました。下の子はまだ小 5 です。まだまだ一緒に頑張りましょと先生方にもお伝え下さい。」（PTA 役員）

### 「NITS からの提案（第一次）」との関連における研修担当者としての気付き

・ 単発型研修を探究型研修とするためには、自身の日々の実践（保護者との関わり）の整理と開示、保護者の思いや考え方に関する新たな気づきと捉え直し、今後の連携・協働に向けた実践提案という「自分ごと化」と「学びの流れ」が必須と考え、事前探求を重視したことに参加者の評価が高かった。

・ 保護者との交流や共に学びあう機会を求める希望は実に多かった。スタートは研修内容や方法・過程に対する学び手の期待や目的意識、当日のゴール（中締め）は新たな気づき、捉え直しと今後の実践に対する方向付け、自身や学校の実践の変容がその先の終わりなきゴールと実感でき、「研修の当事者化」について学んだ。

・ 研修形態としてのカフェ形式は、「うねり」の重視、豊かな学びあいのコミュニティづくりとして意義ありと実感した。

### アイデアや工夫したこと：

・ 参加者がこれまでの保護者との関わりや協働実践に関する振り返り、疑問や不安等を開示・共有し、保護者との対話による思い、願いの学びや捉え直しをとおして、今後の連携・協働に向けた対話の拡充と提案につながるという「学びの流れ」を重視し、事前の「個人探求課題」作成とコピー持参を求め、研修の質向上を図ったこと。

・ 参加者の「学びの深まり」をつくり出すため、企画段階から、県 P 連（事務局、役員会）や県教委（教職員課）と組織的、計画的に連携し、「教職員研修の幅と奥行き」の拡大に努めたこと。

・ 研修の企画編成から運営にあたり、「カフェ」形式の魅力である心地よさ、温かさや連帯的空気感を大切にすることとし、ゆとりある時間設定と環境（集いやすい場所やゆとりある広さ）確保に努めたこと。